

3-1 「成功」と「失敗」の因果関係

まわりを見渡せば、誰もが成功を手にしようとして躍起になっています。しかし成功は、失敗があつてはじめてつかむことができるものということに多くの人は気づいていません。

☐ *To learn to succeed, you must first learn to fail.*

成功を学ぶためには、まず失敗を学ばねばならない。

—Michael Jordan (マイケル・ジョーダン: 1963-)
アメリカのバスケットボール選手

その輝かしい実績から「バスケットボールの神様」といわれたマイケル・ジョーダンの言葉だからなおさら重みがあります。彼はさうこう述べています。

☐ *I've missed over 9,000 shots in my career. I've lost almost 300 games. Twenty-six times I've been trusted to take the game-winning shot and missed. I've failed over and over again in my life. And that is why I succeeded.¹*

これまでに外したシュートは9,000以上、負けた試合がほぼ300試合、26回はウィニング・ショットを任されて外した。ぼくは何度も何度も失敗してきた。でもね、それが成功の理由なんだ。

驚異的な運動能力を身につけ、ジャンプの滞空時間が長いことから「エア (Air)」という愛称で呼ばれ、バスケットボール界において「史上最高」と讃えられているプレイヤーの言葉です。

逆に、戒められているのは、「成功」がひきよせる陥穽(罠)です。賢者たちの知恵をあつめると、失敗を言いたてるよりも、成功がもたらす尊大さを戒める言葉のほうが多いのに気づかされます。

☐ *Too much success can ruin you as surely as too much failure.²*

大きすぎる成功は、大きすぎる失敗と同様、確実に人間をだめにする。

—Marlon Brando (マーロン・ブランド: 1924-2004) アメリカの俳優

マーロン・ブランドは、若いころに映画『乱暴者』(*The Wild One*) や『波止場』(*On the Waterfront*) の演技が高く評価されると、自分勝手にふるまうようになり、その傲慢さゆえにまわりから相手にされなくなっていく。『ゴッドファーザー』(*The Godfather*) で第一線に復帰できたのは、50歳近くってからです。

☐ *Premature success gives one an almost mystical conception of destiny as opposed to will power — at its worst the Napoleonic delusion.³*

若くして成功をおさめてしまうと、人は意志力の代わりに、神秘的な運命を感じてしまう——最悪の場合、ナポレオン級の妄想に陥るはめになる。

—Scott Fitzgerald (スコット・フィッツジェラルド: 1896-1940)
アメリカの小説家

若くして成功して天狗になってしまうと、そこからの道はどうかから失敗の石で敷き詰められてしまうようです。好漢、自重せよ。

語句注

1. be trusted to do 「信頼されて～する」 over and over again 「くりかえし・何度も」
2. ruin A 「Aを破滅させる・Aをだめにする」 surely 「確実に」
3. premature 「時期早尚の・早すぎた」 A as opposed to B 「Bと対照的なA」 at one's worst 「最悪の場合には」 Napoleonic 「ナポレオンのような」 delusion 「妄想」

3-2 「失敗」の効用

失敗はしたくないものです。しかし、失敗をいたづらに忌避しようとすると、新しいことにチャレンジすることに臆病になってしまいます。挑戦しなければ失敗もないのですが、進歩や進化はそこで止まってしまいます。

☞ *Anyone who has never made a mistake has never tried anything new.*¹

失敗したことがない人は、新しいことにひとつも挑戦しなかった人である。

—Albert Einstein (アルベルト・アインシュタイン: 1879-1955)
ドイツ生まれの理論物理学者

じっさい、人類の進歩は失敗のうえに築かれてきました。

この言葉の背後には、「失敗したっていいじゃないか。新しいことに挑戦していく気概のほうが大事だ」という励ましがあります。

☞ *Don't be afraid of making mistakes; be afraid of not trying.*

チャレンジして失敗することを恐れるよりも、何もしないことを恐れる。

—本田宗一郎 (1906-1991) ホンダの創業者

本田宗一郎の人生は、まさに「挑戦の人生」でした。もちろん失敗も数多く重ねています。しかし、彼はその先の成功を目指して挑戦しつづけたのでした。

英語のことわざにも、*If at first you don't succeed, try, try, try again.* (最初はうまくいなくても、何度でも挑戦してみよ) というのがありますが、本田宗一郎はまさにその教えを体現したのでした。

スポーツ界のスーパースター、マイケル・ジョーダンも、挑戦することについて、次のような感慨を口にしています。

☞ *I can accept failure, everyone fails at something. But I can't accept not trying.*²

失敗をすることは耐えられる。誰もが何かに失敗するからね。でも挑戦しないでいることは耐えられない。

—Michael Jordan (→p.070)

未来への扉を閉ざしてしまうのは、失敗することではなく、失敗を恐れて何もしようとはしないという態度です。アメリカ人を見ると、*It's okay to make mistakes.* (失敗したっていいんだよ) と励ましているのをよく目にしますが、日本人はもっと失敗と成功のメカニズムを学んだほうがいいのではないのでしょうか。とりわけ、指導者や上司は、失敗と成功のメカニズムを解明し、失敗の本質と効用をもっと語るべきです。

☞ *The only way you are going to have success is to have lots of failures first.*³

成功を手にしたのなら、まず山のような失敗を重ねることだ。

—Sergey Brin (セルゲイ・ブリン: 1973-) グーグルの共同創業者

失敗は成功への第一歩である。失敗は誰もが経験することであり、それを教訓として努力しないかぎり成功はないのです。大切なのは、失敗してもへこたれない気概をもつことです。

語句注

1. anyone who ... 「.....する人は誰でも」 2. failure 「失敗」 fail at A 「(行方・試み・事業などに)失敗する」 3. The only way ... 「.....する唯一の方法」